Press Release

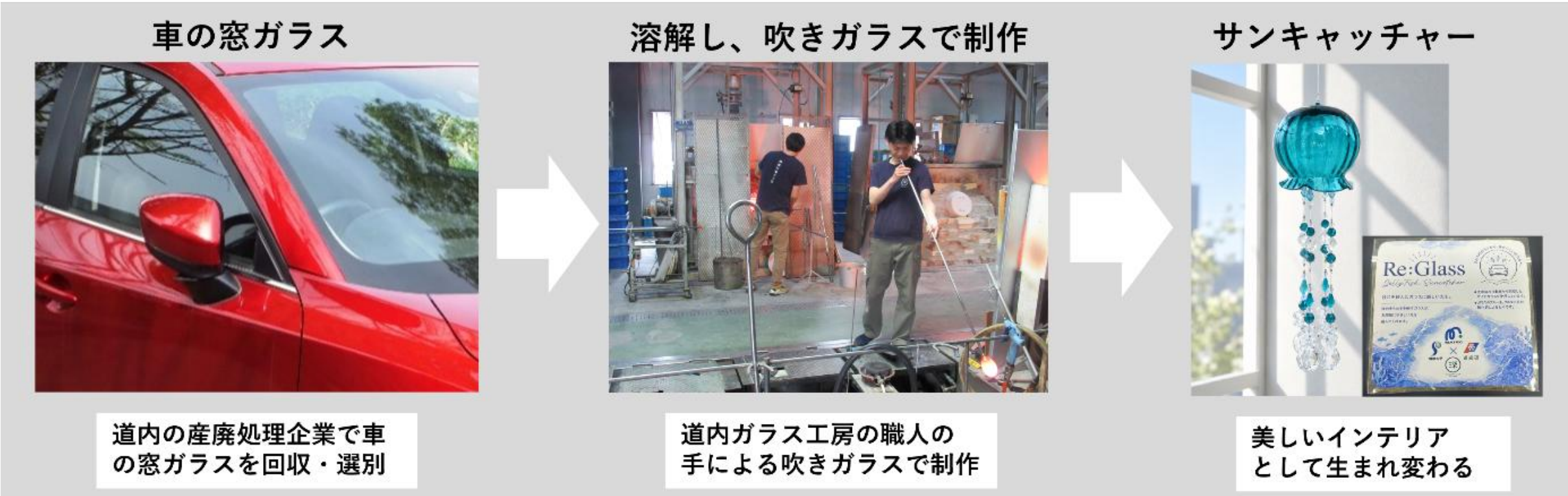
地方独立行政法人
北海道立総合研究機構

令和８年（2026 年）11 月 19 日

『捨てる』から、『飾る』へ。廃ガラスから生まれる新しい価値

―東京の大学祭でアップサイクル製品を販売―

- 廃棄されるはずだった車の窓ガラスがデザインの力で魅力的なインテリアに変身
- 道総研の知見×道内企業の技術力×学生のアイデアの融合によりアップサイクル製品を開発
- 廃材の価値を高めて循環型社会の実現に貢献する取り組みの第一歩



循環型社会の実現には、資源のリサイクルは不可欠ですが、経済的に採算が取れず、進まないという課題があります。そのため、最近では、廃材にデザインやアイデアの力で付加価値をつけ、新しいものに生まれ変わらせる**アップサイクル**が注目されています。**北海道立総合研究機構（道総研）**では、2023 年から消費者に受け入れられるアップサイクル製品の感性価値の研究などを行い、そこで得た知見を道内企業に還元してきました。道総研の指導のもと、廃棄物処理企業の**（株）マテック**（帯広市）で回収された車の廃材を活用したアップサイクル製品の企画に**専修大学商学部**（東京）の学生が取り組んできました。今回、車の窓ガラスと銅を使ったアップサイクル製品（クラゲのサンキャッチャー）を企画、**（株）深川硝子工芸**（小樽）にて制作し、初めて製品化を実現しました。製品は、11 月 7、8 日開催の専修大学祭「鳳祭」にて発売され、来場者から大変好評でした。

使われなくなった車のうち、鉄、銅、アルミなどは有価で取引されるためにリサイクルが進んでいますが、ガラスのように良い利用方法が見つからず、埋め立て処理されているものもあります。今回のアップサイクル製品化の事例は、こうした廃材の新たな活用方法を提案しています。道総研では、今後さらにアップサイクルを促進する仕組みづくりをすすめ、**地域の循環型社会の実現**に貢献してまいります。

〜〜

お問合せ

地方独立行政法人北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部
ヒューマンテクノロジー部　デザイングループ（担当：大久保）
電話 011-747-2376
E-mail oookubo-kyouko@hro.or.jp

＜**用語およびデータ**＞

アップサイクル：創造的再利用とも言われ、廃棄物を原料として、デザインやアイデアの力で、元より価値の高い製品にすること。例えば食品では、オイシックス、アストラフードプランなど、ファッションでは、フライターグ、コーチトピア（バッグのコーチ）、アーバンリサーチ、ナイキなどが知られている。

株式会社マテック（本社帯広市）：自動車、OA 機器などの解体処理する廃棄物処理企業。全道各地に事業所を有する。自社で回収した車のガラス、革シートを活用したアップサイクル製品を販売するマテックプロダクツを運営している。じゅんかんコンビニ、リサイクルアート展なども展開している。
https://matec-products.jp/

専修大学：東京都千代田区に本部を置く私立大学。今回の製品開発に携わった学生は、商学部マーケティング学科・奥瀬喜之教授のゼミの 3 年生。
https://www.isc.senshu-u.ac.jp/~thc0639/seminar/index.html

株式会社深川硝子工芸（小樽市）：伝統的な吹きガラス技法を用いて、デザインから加工まで一貫対応し、自社ブランド「小樽切子」や OEM 製品を製造。
https://fukagawaglass.co.jp/

サンキャッチャー：太陽光をプリズムのように透過・屈折させるガラスなどで作られたインテリア。

感性価値： 商品のスペックなどの機能価値とは異なり、商品やサービスが人間の五感、感情に直接働きかけ、直感的な魅力、感動、共感、心地よさを生み出す付加価値。

関連研究
「北海道内の SDGs に貢献するアップサイクル製品開発ガイドラインの開発」
大久保京子（道総研）
公益財団法人北海道科学技術総合振興センター 2023 年度若手研究人材･ネットワーク育成補助金（タレント補助金）
https://www.noastec.jp/web/archive/study/files/2024_W30.pdf

「廃材の価値を高めるアップサイクル製品開発手法の体系化」
大久保京子（道総研）
公益財団法人日本生命財団 2026 年度若手・奨励研究助成（ニッセイ財団環境問題研究助成）
https://nihonseimei-zaidan.or.jp/kankyo/05.html